## 特記仕様書

工事名称 三原リージョンプラザプール塗装工事

工事場所 三原市円一町二丁目

工事内容 三原リージョンプラザの屋内プールについて塗装改修工事を行う。

## 【工事概要】

・プール塗装改修工事

準 則 公共建築工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、建築物解体工事共通仕様書 (各 令和7年度版 国土交通省官房官庁営繕部監修)に基づき施工する。

関係法令等 本工事については、次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。

- 建築基準法、同施行令、同施行規則
- •消防法、同施行令
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同法施行令、同法施行規則
- · 労働安全衛生法、同法施行令、同法施行規則
- 建設業法、同施行令、同施行規則
- 建設工事公衆災害防止対策要綱
- · 石綿障害予防規則
- 大気汚染防止法、振動規制法及び土壌汚染対策法
- ・建設工事に係る再資源化等に関する法律、同法施行令
- その他関係法令

疑義変更 本設計図書は、設計の大要を示すものであり、詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工する こと。

> 施工に際して疑義が生じた場合、または軽微な変更を必要とする場合には、速やかに監理者と協議後、監督員の 指示により施工すること。ただし、これらに於いて受注金額の増減はなきものとする。

> 本設計図書と不整合が確認されて設計変更(増額)が必要な場合は、その変更数量が確認できる根拠としての写真などの記録が存在し、かつ監督員に承認されたもの以外は認められない。

提出書類 施工に先立ち、工事工程表、仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し、監督員の承認を受けること。 商品名及び製造者名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する 場合は、監督員の承諾を受けること。

設計図書に定める品質及び性能を有することについて、証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けること。

工 期 本工事は請負契約締結の後、令和8年3月16日をもって工期とする。

このうち検査期間として13日間を見込んでいる。(工事の完成通知予定日は令和8年3月3日。)

※令和8年1月31日までに現場作業を完了させること。

留意事項 ・図面に明示されていない事項であっても、工事上必要とされる事は工事範囲とする。

- ・入札に先立ち、現地調査を十分に行うこと。質疑がある場合は入札前に確認すること。
- ・図面について、設計者からの設計意図等の説明が必要な場合は申し出ること。
- ・作業日は、原則、月曜日から金曜日とし、土曜日及び日曜日は休工日とすること。
- ・行政機関の休日に関する法律(昭和63年法律第91号)に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし、 あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。
- ・本工事は「発注者指定型」による週休2日適用工事の対象工事であり、「三原市週休2日適用工事等実施要領 (建築工事)」(令和7年6月24日改定)により工事を行うこと。
- ・工事着手前までに「週休2日適用工事」または「週休2日交代制適用工事」に取り組むことを工事打合せ簿にて 提出すること。
- ・「週休2日適用工事」または「週休2日交代制適用工事」である旨の表示を工事現場に設置すること。

1

- ・月単位の週休2日適用工事を達成できなくなった場合は、対象期間中の現場閉所(現場休息)の状況に応じた 補正係数により労務費を減額する。
- ・当該施設の利用休止期間は、令和7年11月1日から令和8年1月31日を予定している。
- ・当該施設の営業及び運営等への支障を最小限にするため、工事工程及び作業手順等は最大限の配慮をすること。
- ・デジタル化を積極的に推進すること。
- ・定例会議の頻度と方法は協議による。方法は現場事務所での現地開催を基本とし、一部Web会議(現場事務所と市役所を想定)併用とする。現場でのWeb会議の環境設定(受注者側がホスト。Web会議の使用料、現場の通信費等を含む。Web会議用カメラ、マイク、スピーカーなどの周辺機器を含む。)は、工事に含む。
- ・紙資料の削減を目的として、電子機器の利用を主とすること。
- ・定例会の資料は、電子データを原則とすること。
- ・受注者は各定例会の前日までに必要な資料を所定の場所に提出すること。
- ・受注者は各定例会後の5日以内に議事録を作成して、所定の場所に提出して出席者に内容を共有すること。
- ・着手にあたり、工事着手前の周辺道路や近隣敷地の状況を写真等により記録しておくこと。
- ・近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得ながら実施すること。苦情等 が発生した場合には誠意をもってこれに対応すること。
- ・近隣において、その他の工事が行われている場合は、取り合い工事及び工程等の調整を行うこと。
- ・近隣住民等への支障を最小限とするため、騒音・振動・粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用 すること
- ・使用する建設機械については、原則、「低騒音型、低振動型建設機械」として国土交通省の指定を受けた機械を 選定して使用すること。これが確認できる資料を施工計画書で示すこと。なお、事情により使用が難しい場合は 監督員との協議を行うこと。
- ・解体工事・アンカー工事等の騒音・振動・粉じん等の発生が予想される工種については、施工時間及び施工方法 等を最大限配慮した計画により作業を行うこと。
- ・粉塵の発生が予想される工事は、確実に散水を行う等して、周辺環境への粉塵飛散がないように作業をすること。
- ・騒音については、騒音規制法(特定建設作業)により、工事中の作業音は許容限度である85デシベルを厳守すること。工事により著しい作業音の発生が想定される期間については、騒音計による記録を行うこと。
- ・振動については、振動規制法(特定建設作業)により、工事中の作業振動は許容限度である75デシベルを厳守すること。工事により著しい作業振動の発生が想定される期間については、振動計による記録を行うこと。
- ・施工箇所周囲の備品・機器等については、粉塵対策として養生及び清掃等を確実に行うこと。養生や移動を行う場合は、事前に施設管理者または所有者に連絡すること。
- ・近隣家屋・敷地または周辺道路に対して、工事による汚れ・損傷・粉じん等を与えた場合は、受注者が責任をもって、速やかに清掃及び補修等を行うこと。誠意をもって対応し、現状復旧に努めること。
- ・周辺道路の保全及び清掃については常に注意を払って監視をし、定期的に清掃を行うこと。
- ・敷地境界付近には仮囲い(高さ3m以上)を設置すること。
- ・第三者災害防止及び飛散防止対策のために、必要に応じて監督員が指示する範囲にバリケード等を設置すること。
- ・工事期間中は、工事用出入口に交通誘導員を常時配置し、付近の交通の安全を図ること。その他、必要な場所に 交通誘導員を配置し、事故及び危険防止に努めること。
- ・交通誘導員は本工事で見込んでいる。実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更(減額)の対象とする。
- ・工事車両の通行については、近隣住民及び通学児童等の安全を最優先すること。
- ・工事車両は、幅員の広い道路の通行を基本とし、住宅地内などの狭い道を抜け道として使用しないこと。工事車 両の周辺の通行経路については、工事着手前に発注者の了承を得ること。
- ・特殊車両の搬出入の有無については、工事着手前に発注者に報告すること。
- ・特殊車両の搬出入を夜間や早朝に行う必要がある場合は、発注者との協議の上で、事前に近隣住民等へ案内文の ポスティング等を行うこと。
- ・工事車両は、場内を5km/h以下で徐行すること。場内に注意喚起表示を行うこと。
- ・工事区域内の残置する設備配管・配線等については、事前に位置を確認してから作業を行うこと。事前調査記録 を作成すること。
- ・敷地の出入口付近には、敷鉄板(下部に砕石敷)を敷き、高圧洗浄機・水中ポンプ・ノッチタンク等を適切に設置すること。工事車両のタイヤ洗浄等により、道路を汚さないように配慮すること。
- ・工事中の雨水・湧水・洗浄水等の排水については、ノッチタンクによる汚泥等の処理を行う等した上で、適切に 排水すること。定期的にpHを測定し、必要に応じて適宜中和を行うこと。
- ・受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
- ・図面等に示されている仮設等についても、必ず受注者で安全性や施工性等を検証すること。受注者が責任をもって設置、施工すること。

- ・工事に係る電気、水道及び下水道料金等は受注者の負担とする。
- ・工事の要求に必要な仮設は、工事に含むものとする。
- ・重機が転倒しないように事前検討を行い、安全に作業を行うこと。
- ・木工事で使用する木材の産出地は、原則、広島県産材(可能な範囲で三原市産材)とすること。
- ・工事完了後に、木工事で使用する木材の産出地について、数量を整理して提出すること。
- ・家具については転倒防止対策のため、床及び壁へ固定すること。
- ・雨水の浸入を防止する部分、屋根、外壁又はこれらの開口部に設ける戸、枠その他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については、引渡しの日の翌日から10年間責任を負うこと。このことについて、保証書を作成して提出すること。(改修工事については、本工事の範囲)
- ・「①建築物を解体する作業を伴う建設工事であって、当該作業の対象となる床面積の合計が80㎡以上であるもの」、「②建築物を改造し、または補修する作業を伴う建設工事であって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」、「③工作物を解体し、改造し、または補修する作業を伴う建設工事でって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」については、事前調査結果を労働基準監督署及び広島県東部厚生環境事務所環境管理課に石綿等に関する事項を報告すること。
- ・石綿含有建材の調査(書面・目視調査、分析調査調査及び検体採取を含む)について、工事着手前までに一般建築物石綿含有建材調査者、または特定建築物石綿含有建材調査者が行うこと。
- ・その他石綿の飛散防止等については、改正大気汚染防止法及び施行令(令和3年4月1日施行)に基づくこと。
- ・石綿含有分析調査は試料採取と分析調査費を見込んでいる。分析は定性(JIS A 1481-1。含有の場合は、含有する層の判定も行う。)による。
- ・作業員に対して、新規入場教育時に石綿含有建材の使用位置を確認させること。
- ・石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアル(最新版)に基づくこと。
- ・その他、工事に伴う官公庁等への手続きは、受注者により遅滞なく行うこと。この時、各種申請手数料等が発生 した場合は受注者の負担とする。
- ・大雨等の警報が発令した場合、また台風及び強風等による自然災害の発生が予測される場合は、現場代理人等は 現場事務所等へ待機のうえ、現場及び周囲の巡回を行うとともに必要に応じて対策を講じ報告すること。
- ・本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ理由を添えて発注者の承認を受けること。(理由については、三原市内に主たを有する業者に発注できない具体的な理由を明記すること。)
- ・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。
- ・各工程の状況(写真、進捗率等を月2回程度)を工事中情報共有システムの連絡事項にて報告すること。
- ・工事書類については、工事中情報共有システムの決裁データ等を整理して、CD-R又はDVD-R(2部)にて提出すること。
- ・書面での提出が必要なもの(建退共の掛金収納書、試験結果、保証書等)については、PDFを工事中情報共有システムで提出し、別に書面提出ファイルとしてまとめて提出すること。
- ・製本図面(A3縮小版・二つ折り)として完成図を3部提出すること。
- ・以下の設計図面は、A2判をA3判に縮小している。(縮小率約70.7%)

## 三原リージョンプラザプール塗装工事

図面番号	図 面 名 称	縮尺
A-1	タイトル、図面リスト	N. S.
A-2	建築改修工事特記仕様書(1)	N. S.
A-3	建築改修工事特記仕様書(2)	N. S.
A-4	建築改修工事特記仕様書(3)	N. S.
A-5	建築改修工事特記仕様書(4)	N. S.
A-6	建築改修工事特記仕様書(5)	N. S.
A-7	付近見取図・配置図	N. S.
A-8	平面図	1/200
A-9	断面図	1/50

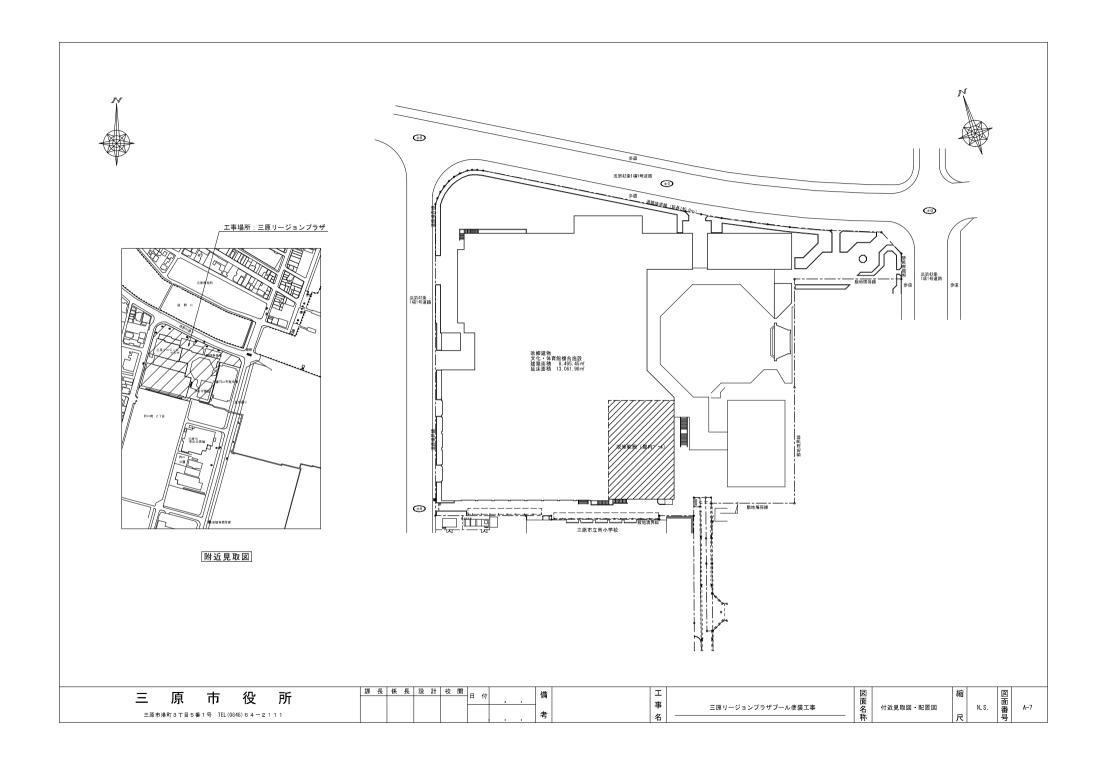
Company   Comp	2. 工事場所: 三原市円		1 7 建設発生土	※ 現場段明書の施工条件明示による ・構内指示場所に急積 ・構内指示場所に敷き切し	1 (12) 調査のための破壊部分の 補修 (1. 6. 3)	植修方法 ※展示 補修範囲 ※医示	(18) 電子納品	※電子納品対象工事とする 電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終結果を電子データで納品すること」をい う。ここでいう電子データとは、「雲緒工事電子納品要領(以下、要領という)」に基づいて作成 されたものを指す
The content of the	5. 工事種目 6. 別途工事			本工事の維物内部に使用する建築料料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、 次の (1) から (4) を満たすものとする (1) 合板、水質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクル	漢漢 事項 [1. 7. 2]	仮設工事 とび とび作業 防水改修工事		成果品については、「萎領」に基づいて作成した電子成果品を電子解体で提出する。「萎領」で特 に記載がない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、「萎領」の解釈に 疑義がある場合は医腎機員と協議の上、電子化の是非を次定する
Company   Comp	本工事は工事中及び竣工後、为 (1)公共事業労務費調整…工事 (2)契約不適合調整…2股里 (3)公共建築物木材利用事例信	事中に実施(調査票等の記入提出、発注者の調査実施への協力等) 事請負契約約款第46条の5に定める期間内		料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図画に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する(2) 接着対処 び撃計に トルエン・キシレン 窓びエチルベンゼンの含者 症がかない材料を使用する(3) 接着対は、可塑剤 (フタル酸ジー n ー ブテル及びフタル酸ジー 2 ー エテルヘキシル等を含者しない 短角発性の可塑剤を除く) が添加されていない材料を使用する(4)(1)の材料を使用でもたたま泉、毒薬、実結合、その他の 付着類等は、ホルムアルデヒド、アセアルデヒド及びステレンを発散しないか、免飲が極めて少ない材料を使用した		合成ゴム系シート防水工事件支 塩化ビニル系シート防水工事件業 セメント系的水工事件業 セメント系的水工事件業 シーリング防水工事件業 交買アスファルトシートトーチエ法防水工事件業 FRD防水工事件業 外型改物工事 外型改物工事		<ul><li>(2) 本工事で使用する情報共有システムは次とする 広島県工事中情報共有システム (http://chotatsu.pref.hiroshims. Ig. jp/ssp/index.html)</li><li>(3) 監督職員及び受送者が使用する情報共有システムのサービス提供者(以下「サービス提供者)と</li></ul>
	(1) 工事に際し、工事関係者 (2) 上記について、「建設」 9. 現状復旧	工事公衆災害防止対策要綱(平成5年1月12日付 建設事務次官通達)」に基づき実施すること		また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次 の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建業基準法施行令第20条の第7第1年に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアル		タイル福り タイル福り作業  建貝改修工事 サッシ他工 ビル用サッシ他工作業  ガラス施工 ガラス工事作業	② 施工図及び施工計画書	
### 1995	10. 主要資材等			②建築基準法施行令第20条の第7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料		ガラス用フィルム施工 建築フィルム作業	② 1 設備工事との取合い	設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける
CANADA   Control of the control of				④建築基準法施行令第20条の第7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料		内装改修工事 タイル張り タイル張り作業	② 数去部分	コンクリート、モルタル等の撤去部分の境目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする
## 10 A 10				れた「広島県グリーン購入方針」に掲載されている品目については、他の特記事項及び図面表記の		建築板金 鋼製下地工事作業	23 適用区分	
### 1	広島県内に主たる営業所	所・木店を有する業者に発注するものとする		範囲内で、環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するよう努めるものとする		左實作業		地表面粗度区分 Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ
## ## YORD ##   1997		載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁常籍部制定「公共建築改修工事標準仕様書						
Compared to the content of the con	(建築工事編) (令和4年	年版)」(以下、「改修標準仕様書」という。)による。		を有するものとする			191	
Company   Comp	標準仕様書(建築工事編			用する場合は監督職員の承諾を受ける。		耐震改修工事 とび とび作業	② 5 施工中の安全確保	- 同一場所で別契約の関連工事が行われる場合は、労働安全衛生法第30条第2項に基づき、当該工事について、同条第1項に規定する措置を講ずべき者として本工事現場代理人を指名する
************************************	<ul><li>(1)項目は番号に〇印の</li></ul>			する		型枠施工 型枠工事作業		・労働安全衛生法第15条に基づく統括安全衛生責任者を選任したときは、本契約後直ちに「統括安
The content of the	⊙印のつかない場合	合は、※印のついたものを適用する		満たすものとし、その証明となる資料(外部機関が発行する証明書の写し)を監督職員に提出		鉄工 構造物鉄工作業	(6) 本作工程表	
Company   Comp	(3)項目に記載[ ]	] の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。		はない		路面表示施工 溶脈ペイントハンドマーカー工事作業	[1. 2. 1]	
************************************	(4) 工事施工上必要な質	官公署その他への諸手続き及び届出は、全て受注者の負担において遅滞無く行うこと		②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること		造順 造順工事作業	_	別紙様式による期間別工事工程報告書を毎月2回1部提出すること
A	(5)関係法令の改正等に	により(条例を含む)、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等に		④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること			(28) 保証書	工事区分 材料名 保証年数 備考
### 1				<ul> <li>⑥販売、保守等の需素体制を脱えていること。</li> <li>(5) 製造業者等に関する資料の提出を定める材料</li> <li>庆慰枠用製菓デッキブレート</li> <li>オーバーヘッドドア</li> </ul>		(1) ホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルペンゼンの室内濃 度を測定し、理学労働省が定め合計計値以下であることを確認し、監管職員に報告する 測定箇所は仕上載により、地工方法は施工を呼明による バッン7型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う		- 防水次修工事 - アスファルト防水 年 温水の場合等 - 改賀アスファルト・防水 年 温水の場合等 - 合設高分子ルーフィング防水 年 温水の場合等
***   *			]	無収縮グラウト材 現場発泡断熱材		測定対象室のすべての窓及び扉(造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む)を		
************************************	章 項 目	特 髭 事 項		既調合モルタル 可動間仕切			0.0 = 3.0   1.0	Wallet Lore Settle
Part	1 道用基準等		1	ルーフドレン トイレブース				公的機関又はこれに準ずる機関で行う。ただし、調合管理強度の管理試験用及び型枠取外し時期の
### 1000   100		※建築工事公衆災害防止対策要綱 ※建設副産物道正処理実施要領(広島県土木局制定)		錠前類 床点検口		③測定		決定用については、生コン工場試験室でもよい
1 日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	通			自動扉機構 屋上緑化システム		ロ 測定時間は、原則として24時間とする。ただし工程等の都合により、24時間測定		
### 1				重量シャッター ポリマーセメントモルタル		が測定時間帯の中央となるよう、10時30分~18時30分までの時間帯で測定する る が測定回数は1回とし、複数回の測定は不要とする		防音パネル、 防音シートを取り付ける足場の設置範囲
1. 3. 1   1.	[1.3.3]  ③ 工事実結情報の登録 [1.1.4]	受注者は、受注時又は変更時において請負金額が500万円以上の工事について、工事実施情報サービス (CORINS) に基づき、受注、変更、竣工、訂正時に工事実務情報として「工事実施データ」を作成し、監督職員の部部を受けた後に登録機関に登録申請し、登録機関発行「登録内容能定書」を監督職員に提出しなければならない。また、途中変更時の登録が必要な場合とは、工期の変更、技術者の変更があった場合とする。 下記以外は現場説明書による。	日本語名有建材の調査	工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石総含有建材の事前調査を行う。		監督職員から期定方法に関する注意事項等の指示を受けること  (2) 木材の診察・助路処理解は、クルドリホス、ダイアンジン及びフェノブカルブを含有しない 薬剤とし、加圧状防察・防熱処理解は工場で行い十分放発させた被取場に搬入する  (3) 保温材、断熱材、援振材については、ホルムアルデヒドを発散しないか発散が迎めて少ないド 方立立な手験のものとうます。  (4) 塗料・壁紙、仕上塗材、合振、接着刑等で屋内に高するものについては、ホルムアルデヒドを 発散しないか、発散が程めて少ないド京☆☆☆等級かものとする  (5) 屋内に高して用いる材料は、上記(2)・(4)に適合した上で、揮発性有機化合物の発散が	■ ② 足場等	外部記事   設置する (製画 ※ 工事に必要な範囲 ) 設置しない   対策シート ・ 記載する (製画 ※ 工事に必要な範囲 ) 投置しない   内部記事 ・ 設置する (※ 削立、足場板等 ) ・ 設置しない   材料、撤去材等の運搬方法 A種 ※ 日種 ○種 ○ 日種   乙種 ・ 日本
1985   1985	[1. 3. 5]	部位別の施工順序 (※図示 )		・ 分析による石締含有建材の調査			3) 既存部分の養生	
日本の大学   日本		資機材置場 (※図示 )		アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、 トレモライト		制定の「営籍工事写真撮影要領」によるものとする		<ul> <li>既存部分の奏生方法 ※ ビニルシート、会様等による</li> <li>既存家長、既存収備等の奏生方法 ※ビニルシート等</li> <li>既存プラインド、カーテン等の奏生方法 ※ ビニルシート等(取外し再取付を行う)</li> </ul>
1	5 工事安全計画書		-	分析方法(定性) 分析方法(定量)				固定された家具等(備品、机、ロッカー等)の移動 ※ 行う(図示)
おおく   182   183   184   18	6 發生材の処理等			JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2				
Machine Chapter (1) (1) (2) (1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2		・特別管理座業廃棄物 (					4 仮設間仕切り	
- 1979 - 19 - 1987 -		・現場において再利用を図るもの ( )		施所 施所				A種 ※B種 C種 図示
## 1975		・コンクリート塊 ・アスファルトコンクリート塊 ・建設発生木材 ・PCB含有シーリング材の処理		サンプル数 1箇所あたり3サンプル		【撮影箇所】建物外観各方向、主要箇所、主要室内その他監督職員が指示する箇所		※ せっこうボード (GB-R 厚さ9.5mm) 合板 (普通合板 厚さ9mm)
- 第二大 注意		・第一次制定 現場にてサンブルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を制定する。 採取箇所数 計 箇所				<b>隣接建物等に損傷のおそれがある場合は、施工前・施工後の写真(カラー・キャビネ版)を監督職員</b>		A種のグラスウールの充填 ※行う(JIS A 6301グラスウール吸音対32K厚50mm) ・行わない
分析性数 対 接触   分析性数 対 接触   当該		第二次判定				(5)保管		
・セランス・ボードの回居 ・・日本のドナスシムの音でつこうボード 多時記は指揮者を重視的回送をフェスト ・ ロボードスシムの音でつこうボード の開発 (1 年 元年)		分析個数 計 箇所 除去処理工事			17 完成時の提出図書	※提出を要する 完成図書:1部	5 監督職員事務所等	
・ 日間合有な 2 分子 1 多数を担保機業 等 環境機能高速を正さる ・ 日かき 1 かまり 2 分子 1 を表します。 2 分子 1 かり 2 小田 2 かまり 2 小田 2 小		・せっこうボードの処理	1 1 施工物品源本			竣工図の作成方法 CAD(CADデータの提出(※要 ・不要))	6 工事用水	横内既存の施設 ※ 利用できる ( ※ 有債 ・ 無償) ・ 利用できない
- 競技権に関係を持 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表している。 ・地域の大きに関係を表し、対している。 ・地域の大きに関係を表している。 ・地域の大きに対している。 ・地域の大きに対している。 ・地域の大きに関係を表している。 ・地域の大きに対している。 ・		・ひ素・カドミウム含有せっこうボード		調査方法 ※テストハンマーによる打診及び目視 ・図示		竣工図 二つ折製本 ( A1版 部 A2版 部 A3版 部)		
- 石前舎有、U東・カドモウム含塩以内でつころボード - 再生現住(原発地に指摘) - 高料金分(管理量機列油) - 「おより表生した対数を構成。 日本 で		<ul><li>製造業者に回収委託</li></ul>		れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量(幅、長さ、面積)の調査を行う		の指示による		
- 再具類性 (接換型に指数) - 美林島 (管理過報的分割)				及び数量(幅、長さ、面積)の調査を行う。		工事完了時の建物仕様に関する資料 (保全マネジメントシステム)	19	
(原) 交通辞母 (特別 大き は 一		再生資源化(再資源化施設) 最終処分(管理型最終処分場)				- 型式台帳		
て適い「公理すること (原則、現内級分) (2) 本工事は快適トイレモデル工事 (※発注者指定性 ・受注者を望型)であり、「快適トイレモデル工事 (※発注者指定性 ・受注者を望型)であり、「快適トイレモデル工事 (※発注者指定性 ・受注者を望型)であり、「快適トイレモデル工事 (※発注者指定性 ・受注者を望型)であり、「快適トイレモデル工事 (※発注者指定性 ・受注者を望型)であり、「体適トイレモデル工事 (※発注者指定性 ・受注者を認定 ・受注者を認定 ・受注者を認定 ・受注者を言えた。		具市、福山市)が原業体処理法に基づき許可した適正な拡張(許可対象となったい中間処理施設にあっては、廃棄物処理法に定められた基準に従った適正な施設)で処理することただし、建設廃棄物が破砕等(温別を含む)により有用物となった場合。その用途に応じ				エザボノ町の延伸に関する資料は、監管機関が指定する様式で作成する。	(10) 交通誘導員	※大型車両進入時 ( ) 人/日 常時配置 ( ) 人/日
三原市役所 「「「「「「」」」」「「「」」「「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「		(2) 本工事における再党源化に要する費用(運搬費を含む処分費)は、前記(1)に同ける施設のうち受入化条件が合うものの中から、連搬費と受入九費(平日の受入九費用)の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。後って、正当な理由がある場合を除き、再資運化に要する費用 (単価)は要更しない (3) 本工事で発生する建設保棄物のうち、広島県内の最終処分場に能入する建設保棄物については、広島県産業保棄物塩立扱が指釈されるので適正に処理すること、なお、広島県産業					11 快適トイレモデル工事	試行要領(令和4年6月1日一部改正)」に基づき実施するものとする。 快適トイレチェックシートの株式は、「広島県の副連情報」の「株式集ン建設工事開係」その他の契約 関係の様式」に掲載している。 また、完成接着までに提出するアンケートは、「広島県の調達情報」の「入札・契約制度)入札・契約
		□ 古 処 託 □*	長係長設計			図		縮   図
= 原市港町3丁目5番1号 TEL(0848) 6 4 - 2 1 1 1	_	까 비 攻 끼			事		建築改修工事物	'
	三原市	市港町3丁目5番1号 TEL(0848)64−2111			名	<del>                                    </del>		

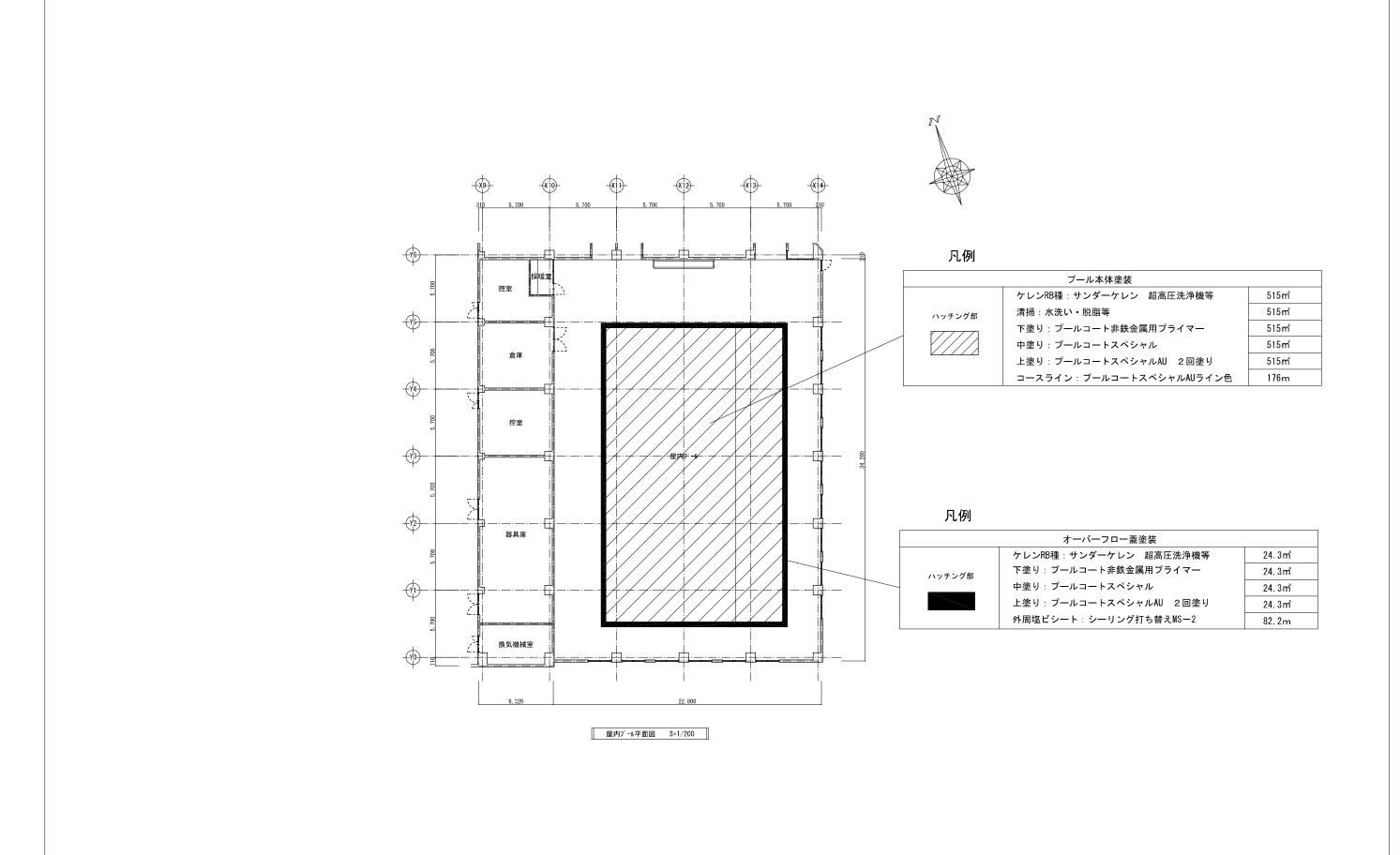
防 養生方:	方法	※ 改修標準仕帳書3.1.3(5)(ア)~(ケ)による。 [3.1.3] ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(試験方法) (1) 寸並の測定方法 (厚さ) 供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4 点の平均値を求めてバネルの厚さとする。	5 改質アスファルトシート防水	屋根腐出防水		屋内防水 防水階の種別 種別 施工箇所 平場のモルタル造り 立上り都の保護モ
\$\footnote{\chi_{\text{s}}} \rightarrow \footnote{\chi_{\text{s}}} \rightarrow \chi_{\		Fotoku       (再りない       (市方ない       医存露出防水層表面の仕上げ塗接の除去       (方) (MAKS MAASI MAC MADI LAX)       (市) (Topk)       (日) (Topk)       (日) (Topk)       (日) (MAS MASI MAC MADI LAX)       (日) (Topk)       (日) (Topk)       (日) (Topk)       (日) (Topk)	(報) 供試体を平らな合に贈き、供試体の圧ぼ中央1 第所の報寸法を、JIS B 7512 [銅製巻尺] [江規定する目量が1mmの1級コンペックスルール又は、JIS B 7516 [金属性巨尺] に規定する 目量が1mmの1級電尺を用いて測定する。 (2) 曲け存度試験は、JIS A 1408 [建築用ボード類の曲げ及び係撃試験方法] による。試験体は 3号試験体とする、職及び原さは最上寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は 試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定		- MA4S - AS-T1 - 機類 使用量 水 - 適用す - AS-T2 - ※製造所 - AS-J2 - ・ 適用す - ・ 適用す - ・ ・ 適用す - ・ ・ ・ 適用す - ・ ・ ・ ・ ・ ・ 適用す - ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 適用す - ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		全塚 工法 ルタルの連塚
3 既存下:		版存下地の補修施所の影状、長さ、数量等 ※ 図示 [3.2.6] POSI主及びPOSI主法(機械的固定工法)の既存度履密を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※ 改修標準仕棒書3.2.6(4)(か)(g)③~③による 設備機器実会、配管樂器、バラベット、買過・バイブ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ※ 図示、だたし、図示が無いものは監管管理と協議する	する。同時に破壊時の中央船のたわみ髪について、変位計と用いて測定する。測定項目については、凍結機料試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。 (窯業系パネル1 類は200サイクルまでとする。) なお、荷重を加える時の平均速度は、1~3 分間で予想最大商重に達する程度とする。 (3) 数本年試験は、JIS A 1530「繊維強化セメント板」に準じて行う。 (4) 類徴性試験は、JIS A 132「連集物の内装材料及び工法の類然性試験方法」に準じて行う。 (5) 数水による長と変化率試験は、試験体 (極40mm×長さ160mm×素材厚さ)を乾燥機に入		- POAS - AS-JI		※ 改修標準仕権書表3.5.1から表3.5.3による ・JIS A 6098に基づく種類及び厚さ 用途による区分 料料構成による区分 ※ R框 厚さ (mn以上) 固定金具の材質及び寸法形状
4 727	ファルト防水	形太陽の種別	れ、その温度をの止ぶいに保ら24時間軽温した後取り出しているド 8123 「強化たカルシウム(該 業)」に規定する。ほ性カルシウムとは 13K 1464 「工業用整機剤」に規定する。最近に適合するシリカゲルで調温したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の環線関隔が 140mmになるように機能を剥む。その後、1/150mm以上の開度をもつコンパレータを用いて 環線間の長さき返走し、それを基準(に1)とする。次に試験内の長さ方向を水平にには立て し、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に湯せきする。 24時間が退した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び機 機間の長さ(L2)を測る。 吸水による長さ変化率(ムしは、次式によって求める。 (ムし) に (2 ー し1) / L1×100		・POASI     チック断熱材 (種類)       ※優質ウレタンフォーム 断熱料を種と種とも ・設けない 防湿層 ・設けない 防湿層 ・設けない ・ ・設けない ・ ・設けない ・ ・ 設けない ・ ・ ・ ・ ・ とる区分 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	7 塗製防水	※ 防錆処理した鍼体、ステンレス鍼体又はそれらの鱗板の片面若しくは面面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの  肥気装置の種類及び設置数量 接着工法の場合の肥気装置の種類 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 接着工法の場合の肥気装置の軽置類 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 接着工法の場合の肥気装置の整置数量 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 (個) ブレキャストコンクリート部材で入限部の増接 り (種類上はの場合) ・行う(・回示 ・ ) 行わない ・ 一方かない ・ 一方の (・回示・・ ) 行わない ・ 「初の原圧力に対応した工法    「防水層の種類
		※ 改修標準化権業務3、3.5から表3、3.4による       ・JIS & 6013に基づく種類及び厚き       月割生による区分       科料構成による区分     ※ R種       厚き (mNU上)       平場の保護コンクリートの厚さこで仕上げ       こで仕上げ     ※ 水下 60mm以上       康タイル張り     ※ 水下 60mm以上	原根露出防水 防水層の種類  - 工法 種別 施工 断熱材 仕上塗料 第年の防 水 横着 使用量 ・ ※6~2 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		材料構定によるほ分 ※ R種 厚さ ( mm以上) 脱気装置の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 脱気装置の設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 (値) 立上り鮎の押え金物の材質、形状及びで法 ※ アルミニウム製 L-30×15×2 0mm程度 発端耐熱に法の防水湯シート		・P 1 Y ※Y - 2     保護層       ・P 2 Y ※Y - 2     保護層       ・B ける     ・ 設ける       × - 1 (総練工法)の股気装置の経費業     ※ 主材料の製造所の仕様       ・ (個)
		較式保護材 富業系パネル:無石精の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生し たもの。 金属複合板:金属板と樹脂を楠層一体化したもの。 (品質・性能)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6 合成高分子系ルー	- 設置する - 設置しない [3.5.2~4] [表3.5.1~3]	8 シーリング	シーリング改修工法の種類
	-	分類・規格     ・ 業業系パネル・ 金属複合板 I 類 I 類 II 類 II 類 II 類 II 類 II 類 II 類	・P001 - 01-1 ・M301   **D1-2 ・M401   **D1-2 ・M401   **D1-2 ・M401   **D1-2 ・M401   **D1-2 ・M401   **D1-2 ・M401   **D1-2 ・M401   **M21-2 ・M401   **M401   **M	フィングシート防水	T.		エッジング材強り 適用する 適用しない シーリング材の種類、施工箇所 表現外は、改修無準性核毒表3.7.1による 施工箇所 シーリング材の種類(記号) 位上げを行わない施工箇所 回示による 打難目地 シーリング材の目地寸法 ※ 改修標準性様書3.7.3(1)による 接着性試験 ※ 簡易接着性試験 引張接着性試験
		吸水による長さ変化率(%) 0.01以下 0.01以下 0.01以下 2.01以下	- JIS A 6013に基づ、種類及び厚き 用途による区分 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mn以上) 部分格著層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準性特雷表3、3.8 から表3、3.9 による - JIS A 6013に基づく種類及び厚き 用途による区分 材料構成による区分 標質 厚さ (mn以上)		・S-MZ     ・適用する       ・S3S ・S-F1     ・ 適用する       ・ 適用する     ・ 適用する       ・ 返けない     ・ 適用する       ・ 3回用する     ・ 適用する       ・ 2回りない     ・ 適用する       ・ 2回りない     ・ 適用する       ・ 2回りない     ・ 適用する       ・ 2回りない     ・ 2回りない	9 とい	といの材種
		ないこと。 があかないこと、機管 変形量1/100以下。 同性生 (E×1) 80,000 N・c m2以上 (スパン40 c m幅30 c mの中央曲げ 時に荷重/20 N の時、たわか4mm 以下となる同性)	脱気装置の後間 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定   (個)		・S-WZ     ・適用する       ・POSI ・SI-F1	10 アルミニウム製笠	とい受け金物及び足金物の料理、形状及び取付け間隔 ※ 改修標準仕様書表3.8.2により、溶験亜鉛めっきを行ったもの 多電地域 適用する 適用しない 防露材のホルムアルテヒド放散量 ※ ドゥ☆☆☆ 既存のといる中心的被及及び時間等に対する業生方法 ※ 図示 領管製といの防露巻き ※ 改修標準仕様書表3.8.4による たてどい受金物の取付け ※ 図示 株 種類 オープン形式 ( 押出250形 押出300形 押出350形 ) 板材析曲げ形 ( オープン形式 シール形式)
					熱材 2種 2 号		本体幅 ( ) mm 核厚 (※ 2.0mm mm) 衰面処理 種別 ( ) 種 色合等 - 標準色 ( ) 特注色 ( ) 既存並木等の拠去 ・行う (範囲 ※ 図示 ) ・行わない 下地補修の工法 ※ 図示 総利折曲に約0 定本の取付方法 ※ 図示 営木の固定金具の工法等 1章 17 適用区分による風圧力の ( 1 1.15 1.3) 信の風圧力に対応した工法
	三原市	原 市 役 所 港町3T目5番1号 TEL(0848)64-2111		工事名	図 面 三原リージョンプラザプール塗装工事 名 称	建築改修	編   図   面   T   T   T   T   T   T   T   T   T

	下地補修	既存間仕切壁の搬去に任う当該壁の取り合う天井、壁面及び床の改修前囲 [6.1.3] ※ 整厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う 図示 天井内の既存態の撤去に伴う当該意の取り合う天井の改修範囲 ※ 望話とり間側的のmm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う 図示 既存天井の散左に伴う取り合い節の壁面の改修 ※ 既存のます 図示 ビニル床シート等の搬去 ※ 仕上村のみ(接着前とも) [6.2.2] でル床シート等の搬去 ※ 仕上村のみ(接着前とも)	6 途作用単板積階材	(6. 5. 2] ホルムアルデヒド放牧量 ※ F ☆☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(9)(b)による ・JAS 0701に基づく連介単単板積解材 施工箇所 品名 「寸法 表面の化粧加工 強装加工)・適用しない ・ 無し (等級: ) ・ カリ(加工: 天然木化粧加工 強装加工)・適用しない ・ 無し (所加) ・ カリ(加工: 天然木化粧加工 効虫処理 合木率 の適用 ・ 加工: 天然木化粧加工 ・ 変装加工)・ 適用しない ・ 加工・ 大郎 (使用透填) ・ ・ 適用しない ・ 加工 ・ 大郎 (使用透填) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	14 軽量鉄骨天井下地	B 野経等の理額
	4 8644	ホルムアルデヒド放牧量     ※ F ☆ ☆ ☆ ☆ 文 又は標準仕様書6.5.2(1)(9)(b)による       ・JAS 1083-5 製材・第5部に基づく下炉用製材     (6.5.2]       第五 第所     (mm)       ※2 報     ※A種 B框       ※2 報     ※A種 B框       ※2 報     ※A種 B種       ・ 3 次     ※A種 B種       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 3 次     ・ 3 次       ・ 4 次     ・ 3 次       ・ 5 次     ・ 3 次       ・ 5 次     ・ 3 次       ・ 5 次     ・ 3 次       ・ 5 次     ・ 3 次       ・ 6 次     ・ 4 次       ・ 6 次     ・ 5 次       ・ 7 次     ・ 5 次       ・ 6 次     ・ 5 次       ・ 7 次     ・ 5 次       ・ 7 次     ・ 5 次       ・ 7 次     ・ 5 次       ・ 7 次     ・ 5 次       ・ 6 次     ・ 5 次       ・ 7		ホルムアルデヒド放牧量 ※F☆☆☆太又は標準仕様書6.5.2(1)(?)(b)による ・普通合板 厚さ 単板の 接着の 板面の晶質 防虫処理 同校材等 の適用 ※8.5 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	15 軽量鉄骨壁下地 16 ピニル床シート 17 ピニル床タイル	※ 常様爆生仕業最差6.7.1によるスタットの高さによる区分に応じた種類 ・ 医示 スタットの高さが5.0mを超える場合 ※ 図示
	5 遊作用集成材	JAS 1083-6 製材 - 第6 部に基づく広葉樹製材   第4 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第		「合板の日本農林規格」による天然木化館合板   原で   接着の程度   防虫処理   「合板の日本農林規格」による特殊加工化紅合板   加工田所   厚さ   接着の程度   表面性能   化粧加工の方法   防虫処理   「成る場所しない   加工田所   表表面の状態   出げ強さ   による区分   が法 (mm)   下の   下の   下の   下の   下の   下の   下の   下	18 接着剤 19 ビニル幅末 20 ゴム床タイル	※ K T
		「集成材の日本農林規格」による化粧は少量作用集成材 施工箇所 品名 樹種名 寸法 化粧溶板の 見付け 見付け材面 間伐対等 (mm) 厚さ (mm) 財面 の品質 の高用 ご材: 2等 「集成材の日本農林規格」以外の途作用集成材 施工箇所 樹種 寸法 見付け材面の品質 含水率 間伐対等 の適用 「集成材の日本農林規格」以外の化粧はり造作用集成材 「無成材の日本農林規格」以外の化粧はり造作用集成材 を で	8 接合具等 9 防繭・防绒処理	まディアムデンシティーファイバーボード(MDF)  施工製所 厚さ 表裏面の状態 曲げ強さに 接着剤に 対極性に 同は材等による区分 よる区分 あ適用   上さ区分 よる区分 の適用   上さ区分 よる区分 の適用   上さ区分 よる区分 よる区分 の適用   上さ区分 よる区分 あまる区分 の適用   上さ区分 よる区分 は一直	21 カーベット敷き	厚さ (mm) 3.0 4.5 6.0 9.0   寸法 (mm) (
			10 内部開仕切り軸及で 疾絶み 11 窓、出入口その他 12 床板張り 13 望及び天井下地	適用部材 処理の方法		タフテッドカーベット用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆  - タイルカーベット - バイルの形状
三原市港町3丁目5番1号 TEL(0848) 6 4 - 2 1 1 1	長係長	設計 校閲 日付		エ	図面名称	游 図 面 番 A-4 尺 号

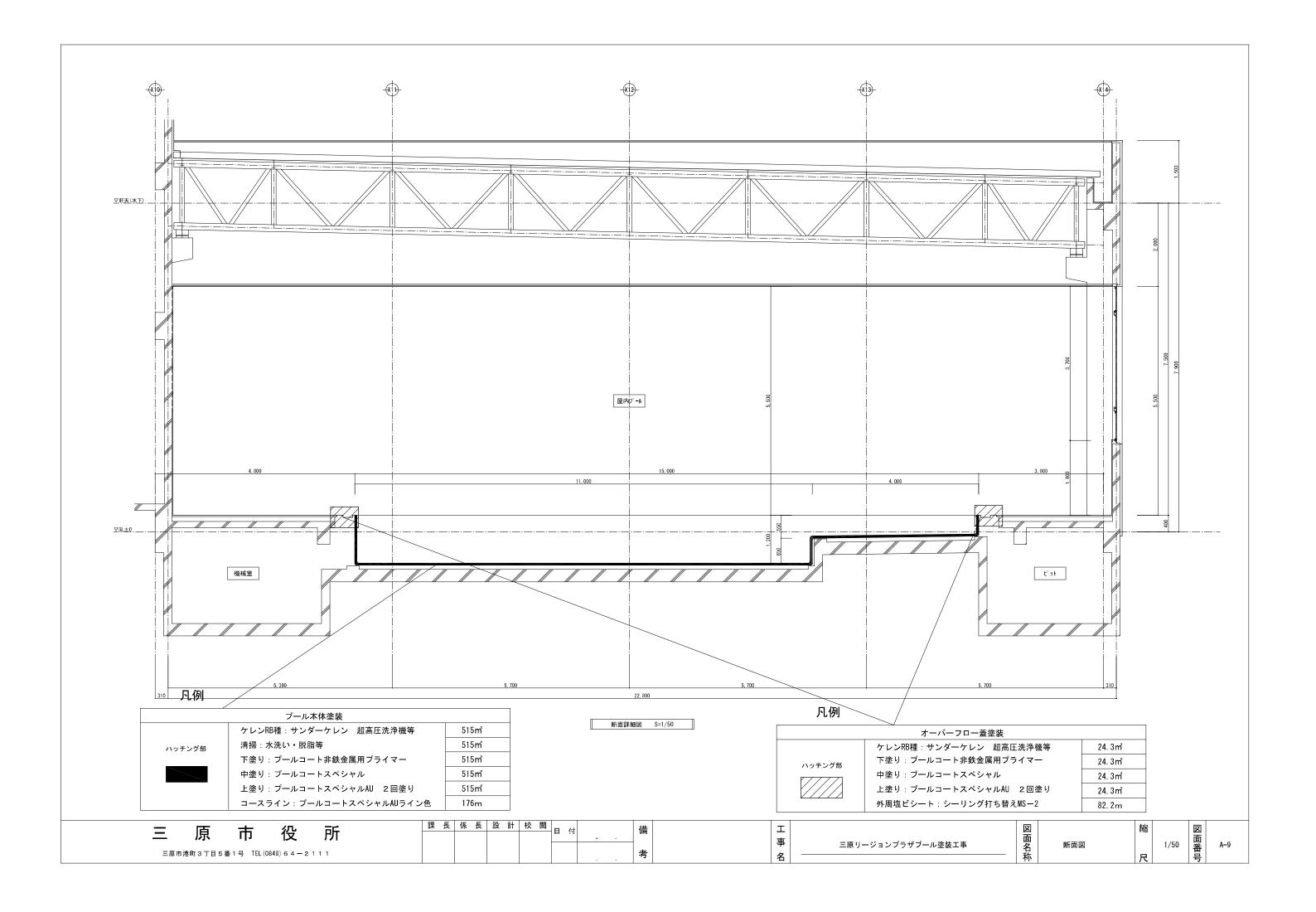
22 合成樹脂塗床	[6. 10. 2, 3]				(4)接着強さ(標準時)の試験方法	(3) 鎖止め塗料塗り	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
22 百双倒崩垄床	種別 施工箇所 工法 仕上げの種類		・ 化粧パーティクルボード ・ 単板オーパーレイ DV		イ)適用タイルが「モザイクタイル」の場合		塗 装 面 塗料の種別 工程の種別
	厚膜型塗床材 ※ 平滑仕上げ 防滑仕上げ 弾性ウレタン樹脂系塗床 つや消し仕上げ		・ ブラスチックオーバーレイ DO ・ 塗装 DC		(試験体の作製) JIS A 5371「ブレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板		鉄鋼面         SOP         新規見え掛り         A種           新規見え隠れ         B種
	厚膜型塗床材   薄膜流しのベエ法 平滑仕上げ		10 (難燃) 12 (難燃)		N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに (1) で翻製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミック		新規元人間化 D性 金替え C種
	エポキシ樹脂系塗床 厚膜流しのベエ法 防滑仕上げ		ハードボード (素地) HB 無研磨板 ( スタンダード テンパード RN)		タイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル		EP-G 新規見え掛り A種 ※B種 A種
	樹脂モルタル工法 ※ 平滑仕上げ		研磨板 ( スタンダード テンパード RS)           ハードボード (化粧)         内装用DI 外装用DE		(外のり寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度 80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。		新規見え隠れ B種
	塗料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ·		2.5 3.5 5 7		(試験方法) JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体を		DP 新規 · A種 ·
23 防じん用塗床	材料 水性アクリル系樹脂塗材とし、製造所の指定する製品とする		インシュレーションボード   IB   A級( 天井仕上げ 内装仕上げ )   9 12 15 18		ダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、 シ樹脂接着剤で銅製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキ試験を		亜鉛めっき鋼面         SOP         新規鋼製建具等         ※A種         B種         A種           新規その他         B種         B
25   0 0 0 10 11 12 14	工法 製造所の指定する工法とする		天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合		行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。		塗替え C種
	なお、上塗りは2回塗りとし、総塗布量は0.25k/m2以上とする		※ 図示による		(全てが0.6N/mm2以上を確保していること) また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。		EP-G 新規鋼製建具等 A種
	仕上げの種類 ( ※ 平滑仕上げ ) ( ※ 標準色 )   JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆		合板の張付け A種 B種 せっこうボードの目地工法 仕上表による		T : タイルの母材破断 M : 既調合モルタルと下地板の界面破断		新規その他         B種           塗替え         C種
			==21-00		TM:既調合モルタルとタイルの界面破断 : 下地板の母材破断 M : 既調合モルタルの母材破断		
24 フローリング張り	[6.11.2~6]				<ul><li>ロ)適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合</li></ul>	(4) 仕上げ塗料塗り	[7.5.2~7.13.2]
	単層フローリング         種類         工法         樹種         厚さ         間伐材等				(試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板		空表の程類
	(mm) の適用	27 壁紙張り	ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ [6.14.2、3]		N-300を下地板とし、表面をサンドベーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ち に(1)で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミ		合成樹脂調合ペイント塗り 木部屋外 ※B種 ※A種
	フローリング   釘留め工法(根太張り) ※ なら   15     15     17   18   19   19   19   19   19   19   19		施工箇所 壁紙の種類 防火性能 備考 紙 繊維 ブラス 無機質 その他		ックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル		(SOP)     木部屋内     ※B種       塗料の種類 ※1種     2種     鉄鋼面     ※B種       A種 ※B種
	# 接着工法 ※ なら 8				108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、		亜鉛めっき銅面 ※B種 ※B種
	フローリング 接着工法 ※ なら 15		不燃 準不燃 難燃		湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。		(銅製建具以外)
	ブロック1等				(5)接着強さ(温冷繰返し後)の試験方法		亜鉛めつき銅面 ※A種 ※B種 (銅製建具)
			コンクリート面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・		(試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々(4)		・クリアラッカー塗り         (CL)         木部         ・A種 ※B種         ・A種 ※B種
	複合フローリング		せっこうポード面及びその他ポード面の素地ごしらえの種別 ※ B種・		接着強さ(標準時)の試験方法の「試験体」と同様とする。		アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り A種 ※B種 A種 ※B種 (NAD)
	種類 工法 樹種 種別 厚さ (mm) 間伐材等 の適用	28 モルタル塗り	[6.15.3, 5, 6]		(温冷縁返し試験) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷緩返し試験に準じて行う。		(NAD)           ・耐候性塗料塗り(DP)         コンクリート面及 ・A-1種 ・A-1種
	天然木化粧複合 f1留め工法(根太張り) ※ なら A種 15	20 (0,7,7,2,7	モルタル ※ 現場調合材料 既調合材料(材料 )		試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに−20±2℃の恒温器		上塗り等級 び押出成形セメン B-1種 B-1種
	フローリング - 釘留め工法(直張り) - B種 12		既製目地材 設ける 施工箇所 ( ) 形状 (※ 図示 )		中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を1サイク ルとする操作を10回線返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視		· 1級
			設けない 床の目地 設ける(目地割り ※ 2 m2程度(最大目地間隔3 m程度 )		ルと9 る操作を10回標返した後、試験至に2時间静謐し、ひひ割れ及び膨れの有無を目依 によって調べる。		- 2級 - 3級
	B種 12		(種類 ※ 押し目地・・・・)		(温冷繰返し後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイ		つや有合成樹脂エマルション コンクリート面 ※B種 A種 B種
			設けない 外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験		ル」とも、各々温冷緑返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準 時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0.4N/mm2以上を確保していること)		ペイント塗り(EP-G)     モルタル面     ※B種     A種     B種       せっこうプラスター面     ※B種     A種     B種
	各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆		適用する 適用しない		(6) 長さ変化率の試験方法		せっこうボード面 ※B種 A種 B種
	接着工法の場合の裏面緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上げ ・ 行う		壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理		JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ 変化率に準ずる。		屋内木部     ※ B種     ※ A種       屋内鉄鎖面     ※ B種     A種     B種
	祝梅坐表仕上げ ! 付つ   ※ ウレタン樹脂ワニス塗り		<ul><li>・図示による</li><li>建具回り等の充填モルタルに使用する防水剤</li></ul>		(7)曲げ強さの試験方法		産内亜鉛めっき面 ※A種 ※A種 B種
	<ul><li>オイルステインの上、ワックス塗り</li></ul>		(品質・性能)		JIS A6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。		合成樹脂エマルションペイント塗り ※B種 A種 B種
	生地のままワックス塗り 行わない		(試験方法) JIS A1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による		試験室の状態:試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。 既調合目地材		(EP)       ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)       A種 ※B種 A種 ※B種
	1142.900.		項目 品質・性能 防水剤の種別 建築用のモルタルに用いるセメント防水剤		(品質・性能)		・ステイン塗り ・ピグメントスティン塗り
25 畳敷き	[6.12.2]		混合割合 セメント重量の5%以下		項目         品質・性能         項目         品質・性能           保水率         30.0%以上         吸水量         50以下		・オイルステイン塗り(OS)
	種別 A種 B種 C種 ※D種 (畳床: KT-I KT-II ※KT-II KT-K KT-N) 下地の種類 標準仕様書表12.6.1による床組		凝結及び安定性 (凝結時間) 始発:1時間以上 終結:10時間以内		表示学 30.0%以上 吸水量 30以下 長さ変化率 0.2%以下(収縮) 単位容積質量 1.80k/L以上		・木材保護塗料塗り (WP) ・A種 ※B種 ・A種 ※B種 つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(コンクリート面、モルタル面、せっこうブラスター面、
	・ ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン )		(安定性)収縮性、膨張性のひび割れ及びそりの有無について確認する。 曲げ及び圧縮強度比 防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上		(試験方法)		せっこうボード面、その他ボード面)の塗替えの場合のしみ止め
	■表及び豊床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて		吸水比 防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下		<ul><li>(1)試験の条件</li><li>試験室は、温度20±2°C、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、</li></ul>		※ B種又はC種の場合は改修標準仕様書表7.9.1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする
	重数及び重体は小ルムアルテヒト、アセドアルテヒト及びステレンを完成しないが、完成が極めて   少ない材料を使用したものとする。		透水比 防水剤を混入したもの、しないものの透水比 80%以下 ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 <sup>5</sup> Paとし1時間行う		器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。		合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
	衝撃緩和型量(畳表: C1 C2)				(2)試料の調整		※ B種又はC種の場合は改修標準仕様書表7.10.1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする
26 せっこうボードその 他ボード及び合板	MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 [6.13.2、3] ※F☆☆☆☆	29 タイル張り	[6.16.2~4]   伸縮調整目地の位置 床タイル (※ 緩、横とも4m以内ごと 図示 )		正味質量と標準練り上がり量より、1.0~1.2Lの試料を練り上げるのに要する材料に相当 する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水		<ul><li>高日射反射率塗料塗り</li></ul>
張り	合板のホルムアルデヒド放散量		床タイル以外 ( ※ 図示		を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定		下地調整 (改修標準仕様書表7.2.2) RA種 ※ RB種 RC種
	※標準仕様書19.7.2(2)(4)の(a)~(d)のいずれか (E. * (********************************		セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り     旅工   彩状/寸法   再生材料   吸水率による区分   うわぐすり   役物   色   耐凍害性   耐滑		する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投 入し3分間練り混ぜて試料とする。		工程     塗料その他     塗付け量       規格番号     規格名称     種類     等級     (k/m2)
	種 類 JISの 厚さ (mm)、規格等 記号		原工 かんり 点 (キエペイン (東京 ) 1 次   1 x x x x x x x x x x x x x x x x x x		(3) 保水性 (ろ紙法)		塗料塗り JIS K 5675   屋根用高日射 2種 1級 2級 3級 塗料製造所の
	- 硬質木毛セメント板 HW 15 20 25				JIS R 3202 「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス(縦200mm、		反射率塗料 仕様による
	中質木毛セメント板     MN     15     20     25       普通木毛セメント板     MN     15     20     25				横200mm、厚さ5mm)の上にJIS P 3801『ろ紙(化学分析用)」に規定する5 Aろ紙(直径18.5cm)をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく(内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm)		クリアラッカー塗りA種の工程2の着色 適用しない 適用する(着色剤:溶剤形着色剤 油性染料着色剤)
	硬質木片セメント板 HF 12 15 18 21				を設置し、2) で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく		ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色
	普通木片セメント板 NF 30		耐滑り性: JIS A 1509-12 (セラミックタイル試験方法一第12部: 耐滑り性試験方法) で規定する C.S. R値は0.4~1.0とする。		上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長		・適用しない 海田士 7 (神界 21) 一 沖井 野野 神界 21
	けい酸カルシウム板		標準的な曲がりの役物は一体成形とする		さをノギスを用いて 1 mmまで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式によ		適用する(着色剤: 油性頭料着色剤 溶剤形顔料着色剤) オイルステイン塗りの工程等
	・ロックウール化粧吸音板 DR ・フラットタイプ(・9(不燃) 12(不燃) )		試験張り 行う ※ 行わない		り保水率を求める。		
	<u>凹凸タイプ( 12 (不燃) 15 (不燃))</u> ロックウール吸音ポード1号 RW-B 25		見本焼き ・ 行う ・ 行わない		保水率 (%) =50/平均値×100 注) 50: リング型わくの内径 (mm) (4) 単位容積質量	8	特記仕様書(構造関係)による
	グラスウール吸音ポード32K GW-B 25(ガラスクロス包)		既調合モルタル		(2) で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に	藍	
	・せっこうボード     GB-R     ※ 12.5 (不燃)     15 (不燃)       ・不燃積層せっこうボード     GB-NC     9.5 (不燃)     化粧無 (下地張り用)		モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤 等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。		規定する方法で求める。	器	
	化粧有(トラバーチン模様)				<ul><li>(5) 長さ変化率</li><li>(2) で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。</li></ul>	Ţ	
	・シージングせっこうボード     GB-S     12.5 (※不燃 準不燃)       ・強化せっこうボード     GB-F     12.5 (不燃)     15 (不燃)		(品質・性能) 項目 品質・性能 項目 品質・性能		(6) 吸水量	事 (1) 石綿含有建材の	調査 [9.1.1、3~5]
	強化せっこうボード		保水率   70.0%以上 長さ変化率   0.20%以下		(2) で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定 する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。	9 除去工事	石綿含有建材の事前調査
	- 化粧せっこうボード (木目) GB-D 12.5 (不燃)幅 440mm 程度		単位容積質量 1.80k/L以上 曲げ強さ 4.0N/mm2以上		有機系接着剤によるタイル(セラミックタイル)張り	環境	工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。
			接着強さ 標準時 0.60N/mm2以上 温冷繰り返し後 0.40N/mm2以上		タイルの形状、寸法等       施工     総状/寸法     再生材料     吸水率による区分     うわぐすり     役物     色     耐凍害性	配	貸与資料(
	(トラバーチン模様)		(試験方法)		箇所 (mm) の適用 I類 I類 II類 II類 II類 II類 II類 II類 II類 II類	- 200   100	・分析による石綿含有建材の調査
	・ 普通合板 表板の樹種名		(1) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げる			¥	分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、
	生地、透明塗料塗り (※ ラワン程度 · )		のに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。			<del>*</del>	トレモライト
	不透明塗料塗り		練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、 練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料				分析方法 分析方法 (定性) 分析方法 (定量)
	(※ しな程度 ・ ) 板面の品質 ( )		とする。		標準的な曲がりの役物は一体成形とする 有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆		材料名 JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2 JIS A 1481-3又はJIS A 1481-4
	厚さ (mm) ( )		(2) 保水率の試験方法				箇所 箇所
	接着の程度 ( 1類 2類 ) 防虫処理 ( 行う 行わない)		JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス(縦150mm、 横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5 Aろ紙(直	00 1-11-11-11-11-11	村 [6. 17. 2、3]		<u>笛所</u> 茵所
	· 天然木化粧合板 樹種名 ( )		径11 cm)をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく(内径50mm、高さ10mm、厚さ	30 セルフレベリング 塗り	11 塗厚 (mm) ※10mm程度		材料が仕上塗材の場合は、層ごとの分析を行うこと
	接着の程度 ( 1類 2類 )		3 mm)を設置し、(1)で調製した試料を平滑に詰込む。 その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部に				サンプル数 1箇所あたり3サンプル 採取箇所 図示
	厚さ (mm) ( )   防虫処理 ( 行う 行わない)		なるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた	7 ① 材料	屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 [7.1.3]		(宋4) (四月) (四月)
	特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 (オーパーレイ・プリント・塗装)		方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。	::::::::::::::::::::::::::::::::::::::	<b>※</b> F☆☆☆ ·		・ アスベスト粉じん濃度測定
	表面性能 ( ) タイプ 接着の程度 ( 1類 2類 )		試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率=50/平均値×100 (注) 50:リング型わくの内径 mm	装	防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする 次の箇所を除き防火材料とする ( )		測定時期、場所及び測定点 適用 測定名称 測定時期 測定場所 測定点(各施工箇所ごと)
	厚さ (mm) ( )		(3) 単位容積質量の試験方法	幣			測定 1 処理作業前 処理作業室内 計 点
	防虫処理 ( 行う 行わない)   メラミン樹脂化粧板		JIS A 1171「ボリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。	工 (2) 下地調整, 素地ごしらえ	塗替え種別がRB種の場合の既存塗膜の除去範囲 [7.2.1~7] ※ 劣化部分は除去し、活膜部分は残す		測定 2   調査対象室外部の付近   計 点
	メラミン樹脂化粧板     JIS K 6903 による厚さ (※ 1.2 )       ポリエステル樹脂化粧板				下地調整、素地ごしらえ		測定3     処理作業中     処理作業室内     計 点       ※ 測定4     セキュリティゾーン入口     計 点
	ミディアムデンシティ MDF 3 7 9 12				下地面の種別 塗替え 新規 ひび割れ部の補修 下地額数の連別 幸地ごしたその類別		※ 測定 5 集じん・排気装置の排出口 出口吹出し風速 1 m/s 以下
	ファイバーボード         ・無研磨板 VN ・研磨板VS				下地調整の種別         素地ごしらえの種別         ー           木部         ※RB種         ・A種         B種         ー		(処理作業室外の場合)     の位置     計点       ※ 測定 6     処理作業室外     計点
	パーティクルボード 10 12 15 18				鉄鋼面 ※RB種 C種 -	11	施工区面周辺 敷地境界
					鉄銅面(DP)     ※RB種     B種     -       亜鉛めっき面     ※RB種     A種     B種     -		※   測定 7   処理作業後   処理作業室内   ・計 点   ・計 点
					モルタル面、せっこうブラスター面 ※RB種 A種 B種 行う		別定8 処理作業後 処理作業室内 計 点
					コンクリート面 (DP以外) ※RB種・・・・B種・・行う		測定 9 (シート撤去後 調査対象室外部の付近 計 占
					A L Cパネル         押出成形セメント板面(DP)         ・RB種 ・RC種 ・A種 ・B種 ・行う		1週間以降)
					コンクリート面		
					せっこうボード面、その他ボード面 ※RB種		
=	百 士 犯 託 課長	係 長 設	計校閱日は備		_   図		<b>校</b> 図
Ξ	原 市 役 所 <del>  ※ &amp;  </del>		日付 1厘		工	9-h Adri-1 14	縮
	OTBEE 4 B TEL (0040) 2 4 4 4 4				尹   三原リージョンブラザブール塗装工事   名	建築改修工事特	寺記仕様書 (4)     N. S.     <b>番</b>   A-5
三原市港町	3 丁目 5 番 1 号 TEL (0848) 6 4 - 2 1 1 1				名		尺

	測定方法	3 断熱·防露改修工事	[9.3.2~4]				1	T		
	自動測定器による測定 別定名称 測定方法		フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒト放散量 ※ F ☆☆☆☆	9 床点検口	材種	寸法	形式 備考	16	コンクリートの気乾 単位容積質量による	
	<ul> <li>測定4 - 測定5 粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、</li> </ul>		断熱材打込み工法			(mm)			種類及び強度等	設計基準強度 (Fc) スランブ (cm) 適用箇所
	・ 測定 ( ) 繊維状粒子自動測定器 (リアルタイムファイバーモニター)等の粉 じんを迅速に測定できる機器を用いた測定		種類         厚さ (mm)         施工箇所           ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材         25			製 450×450 製 ※ 600×600	一般形     屋内外用     銀付き       密閉形     屋内用			【N / mm2】 ※ 2 4 ※ 標準仕様書表6.2.2による ※ コンクリート全て
			※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 ※ 2種 b A ※ 25 ※ 外壁 (スキン層なし)		類製 密開彩とは ボ	ルト・ナット等メカニ	カル構造にパッキンを装着したものとする。			(無筋コンクリートを除く
	・ JIS K 3850-1に基づいた測定       測定名称     メンプレンフィ 試料の吸引流量 試料の吸引時間				(品質・性能)					
	ルタ直径 (mm)     (I/min)       ・瀬定4 ・測定5 ・測定()     25       5     30		- 硬質ウレタンフォーム断熱材 25			材質 アルミニウム及びアル	屋内外用 屋内用 /	17	セメント	種類 (6./3.1 ) ※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメント A種、シリカセメント A種又は
	・ 測定( ) 47 10 120		フェノールフォーム断熱材 25 施工箇所の詳細は、仕上表及び図示による			ミニウム合金押出形材 ステンレス製	才 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15 JIS G 4305のSUS304、 JIS G 4305のSUS430			フライアッシュセメントA種 ・ 高炉セメントB種
	・測定( )         47         10         240           ・測定( )         ( )<					A730A	SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B			・ フライアッシュセメント日種
	石綿含有建材の処理		断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※ A種 1 A種 1 H				(表面処理) HL又は2B 仕上げ程度 仕上げ程度	18	型 <b>枠</b>	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.8.2)
	<ul><li>石締含有吹付け材の除去</li></ul>		吹付け厚さ (mm) 25 30			頻製	- 標準仕様書表18.3.1及び表			せき板の材料 ※ 合板 厚さ (※ 12 mm )
	除去対象範囲 ※ 図示 除去工法 ※ 改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による		施工箇所 ※ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレン回りの床版下等、部分的に後 張りとしなければならない箇所				18.3.2の ざび止め塗料塗り 等の防錆処理を行ったもの			・メッシュ型枠 ・断熱材を兼用した型枠 厚さ25mm以下かつ熱抵抗値1m ∫ °C ∕ k C a I 以
	除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 固形化		· 図示		二重蓋の中蓋	鋳鉄 その他	JIS 6 5501のFC150、FC200 塩化ビニル樹脂製等	19	無筋コンクリート	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による
	除去した石綿含有吹付け材等の処分		現場発泡断熱材		目地材	黄銅	JIS H 3100 ØC2600, C2720, C280			種 類 設計基準強度 (Fc) スランプ 施 工 箇 所
	・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)		(品質・性能) 項目 - 品質・性能			ステンレス	JIS H 3250 のC3602、C3604 JIS G 4305のSUS304、SUS430JIL欠はSUS443J1			N/mm2  (mm)   (mm)
	- 石綿含有保温材等の除去		難燃性 下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級奏面加		序板材コーナー	ステンレス鋼板	JIS G 4308のSUS304 JIS G 4305のSUS304、 JJS G 4305のSUS430			種類
	除去対象範囲 ※ 図示 除去工法 ※ 原形のまま、手ばらし ・ 破砕して除去		熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。		ピース底板補強		SUS430J1L, SUS443J1 /			※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は
	除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 固形化 除去した石綿含有保温材等の処分		(2)法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロ リー試験)に適合していること。		M	アルミニウム板	JIS G 4308のSUS304 JIS H 4000 (A1100P H24) / -			フライアッシュセメントA種 - 高炉セメントB種
	埋立処分(管理型最終処分場) 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)		発熱性				表面処理:陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15)			・ フライアッシュセメントB種
	<ul><li>石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外)の除去</li></ul>		<ul><li>(1) 総発熱量が8MJ/m2以下であること。</li></ul>				JIS H 8602 (B)	20	床コンクリート	(8. 1. 4) (表8. 1. 5)
	除去対象範囲 ※図示 除去した石綿含有成形板の処分		(2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200KW/m2を超えないこと。			鋼材	- 解製叉はJIS G 3313にメラ ミン樹脂焼付塗装若しくは、		直均し仕上げ	仕上げの平たんさは、図示以外は下記による
	<ul><li>石綿含有石こうボード</li></ul>		(試験方法) (1) 原液試験 (原液粘度試験)				標準仕様書表18.3.1及び表 18.3.2のさび止め塗料塗り			よる平たんさの種別 a種 合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、
	※ 埋立処分 (管理型最終処分場) - 石綿含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板		JIS K 7117-1「ブラスチックー液状、乳濁状又は分散状の樹脂-ブルックフィールド		J. 61 11		等の防錆処理を行ったもの			フリーアクセスフロア(置数式) ( )
	<ul><li>埋立処分(安定型最終処分場)</li><li>中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)</li></ul>		形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。 (2) 発泡品試験		パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、 スポンジラパー エチレンプロビレン等枠の材質、			b種 カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り ( )
	・ 石締合有成形板(石総合有けい酸カルシウム板第1種)の除去		1) 試料の作製は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1 による。		アンカー材		形状に適した弾力性、密着性を有するもの 鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの			○種 タイル張り、モルタル塗り フリーアクセスフロア (支柱調整式)
	除去対象範囲 ※図示		<ol> <li>試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作製はJIS A 9526</li> </ol>		取手		黄銅鋳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金			/
	養生方法		の6.2.3による。 3) 試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。				鋳鉄製、スケンレス鋳鋼品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆	21	あと施工アンカー	(14.1.3 6章内装改修工事 軽量鉄骨天井下地及び8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による
	除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分 埋立処分(安定型最終処分場)		4) 圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.5による。 5) 熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6による。				した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れ が生じないものとする			あと施工アンカー施工後の確認試験 ※ 行う /・ 行わない
	・ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設)		6)接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.7による。		鍵		黄銅製 ステンレス製、亜鉛合金製とする	20	トイレブース	/ (00.0.5)
			7) 透湿率試験は、JIS A 9526の6.2.8による。 (3) 難燃性の試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。		蓋の耐荷重性能		施錠/開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする 蓋中央部が荷重値Pn=1,000Nにおいて残留たわみが点検	22	N1 D )—X	(20.2.5  表面材の材料   脚部   ドアエッジ
	- 石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板 (下地調整材) の除去 下記以外は、改修標準仕様書9.1.1及び9.1.2による		1) 難燃性の試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。 2) 発熱性試験は、超築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の				ロの有孔径の0.08%以内であること。 受力枠、蓋その他の使用上支障がないこと。			形状
	除去工法		評価方法に使用している試験方法に準じる。		W1114 14 0 E		破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること 。			ポリエステル樹脂系化粧板
	※ 石綿障害予防規則(平成十七年二月二十四日厚生労働省令第二十一号)第6条 による措置と同等以上の効果を有する措置とされる工法		断熱材後張り工法			容差 ±0.5mm以下 差 ±0.5mm以下				表面材と同材
	<ul> <li>集じん装置併用手工具ケレン工法</li> <li>集じん装置付き高圧水洗工法(15MPa以下、30~50MPa程度)</li> </ul>		断熱材の理類 ( ) 断熱材の厚さ ( mm)		受け枠と蓋枠の (試験方法)	クリアランス 片側2.0	n/m以内			(品質・性能)
	・集じん装置付き超高圧水洗工法(100M P a 以上)		・断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル(材質 厚さ mm)		耐荷重試験		/			項目 /品質・性能
	超音波ケレン工法(HEPAフィルター付き掃除機併用)  射離剤併用手工具ケレン工法		張り付け工法 断熱材の張り付け工法				度、枠見込みは、40mm以下とする。 の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。			表面材 メラミン樹脂系、ボリエズテル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。 裏打材 JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鍋材については、防食処理及
	・ 剥離剤併用高圧水洗工法 (30~50MPa程度) ・ 剥離剤併用超高圧水洗工法 (100MPa以上)		断熱材へのボードの張り付け工法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			ONを加圧した後、本記 000以で加圧 荷運除去	(験を行う。 :を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する(終局			び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。 心材 JIS A 6512「可動間仕力」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一
	- 剥離剤併用超音波ケレン工法	4 屋上緑化改修工事			荷重)まで加	圧する。 /				材の場合は適用しない。
	集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法 除去対象範囲 ※ 図示		屋上線化軽量システム 適用する 適用しない 芝及び地被類の種類等 ※ 図示		測定は、蓋中 1,000Nまで3		)N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について			枠材         JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鎖材については、亜鉛めっき           エッジ材         処理を施した材料/する。
	作業場の隔離 ※ 行わない ・ 行う 試験施工 ※ 行わない ・ 行う		見切り材、舗装材、排水穴、マルチング材等 ※ 図示	10 手すり		/				小口 防水処理を施す。
	除去した石綿含有仕上塗材の処分		(品質・性能等)		材質		百仕上げ 直径 (mm) 取付箇所			(2) 構造金物
	埋立処分(安定型最終処分場) 埋立処分(管理型最終処分場) 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)		項目 品質・性能		集成材	・ クリアラ イブ / ・ H L 程度	35 45			項目         品質・性能           脚部         J1S 6 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L
	除去した石綿含有仕上塗材の保管、運搬及び処分		成材の主要材質 (保水層を有する場合は、保水層共)		<ul><li>鋼製パイプ</li><li>ビニル製ハン</li></ul>		· EP-G			(脚具、幅木) SUS444/J1とし、仕上げはLL程度とする。
	※ 改修標準仕標書9.1.3(3)による 確認及び後片付け ※ 改修標準仕標書9.1.3(4)の(7)、(5)及び(5)による		透水層 目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出さ せない構造であること。							(3) 付属金物
	日 石綿含有建材除去後の仕上げ工事 ※ 図示		排水層 植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しな い構造をもつこと。	11   天井見切り縁等		と天井の取合いの見切! 7ム既製品 ビニ	縁(天井見切縁、下がり壁見切縁)の材種 ル既製品			項目     品質・性能       ヒンジ     耐能性のあるものとする。
8 天井点検口			排水層の鉛直方 240 L / m2 h 以上	12 視覚障害者用は		/	(11. 2. 2, 19. 2. 2)			ラッチセット 戸当り 漢触の恐れのある材料には防鶴処理を施してあるものとする。
	材種   寸法 (mm)   形式   外枠   内枠		向の排水性能   一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。	タイル (視覚障害者語	施工管		種類 寸法(mm) 厚さ(mm)			戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。
	600×600   ※ 屋内用   目地タイプ   目地タイプ   気密形		(排水層の許容 圧縮強度) 3×10 N/m2以上の載荷重で破損・有害な変形がないこと。	(优見障害を診		塩化ビ	ニル製 ※ 300×300 7.0 ックタイル ※ 300×300			(4) 外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b) による。
	(品質·性能)		耐根層 重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上				コンクリート製 ※ 300×300 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			(5) パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性 項目 品質・性能
	内外枠の材質 アルミニウム製   JIS H 4100 A6063S-5又は同等の性能を有するもの		の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。    耐根層保護層   材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工		屋外	・セラミ	ックタイル ※ 300×300			耐薬品性及び耐汚染性 耐引っかき性
	表面処理 陽極酸化皮膜JIS H 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの (外部に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの)		後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む)の下に設ける場合は省略することができるものとする。			・コンク	・コンクリート製 ※ 300×300 リート製			メラミン婚脂系化 JIS K 6903 (2008) 「熱硬化性樹脂高圧 ー 粧板及びメラミン 化粧板」の表8品質による耐汚染性
	内枠及び外枠のコーナービース 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの		(試験方法) (1) 排水基壁の耐荷重性能		突起の形状、配	列及び寸法は JIS T 92	251C&&			樹脂系単一材 (B法)の規定を満足していること。 低圧メラミン樹 ポリエステル樹脂系加工化粧合板、ポリエステル樹脂系化粧MDF、ポリエ
	外枠の取付け金物		(イ) 3×10 <sup>d</sup> N/m2の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変	13 鉄筋	8章前震改修工 種類の記4	事にかかる部分は除き.	下記による     (5.2.1)(表5.2.1)       呼び名     備考			脂系化粧板 テル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。 ボリケステル樹脂 JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊 JAS「合板の日本農林規格」第9条
	鋼板に亜鉛めっき等の防鯖処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの 内枠の仕上げ材留付金物		形・破壊の起きないことを確認する。また、その時の圧縮応力に対する歪み (%) を 測定する。(保水層を有する場合は保水層も対象とする。)		× SD29	5A	6以下			系加工化粧合板 加工化粧合板に示された耐汚染性B試 殊加工化粧合板に示された耐引っ
	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき網板又は同等の性能を有するもの 耐久性能(繰り返し開閉試験)		(ロ)試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。 加圧速度は10mm/min以下とする。		/% SD34	5	9以上			験において、試験片の表面に色が残ら き性B試験において、きずの深さ ないこと。 平均値が10μm以内であること。
	(1)50回、100回、300回の内蓋の垂れ下がりが、0/5mm以内。				/	'	-			/ボリエステル樹 JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。 脂系化粧M D F
	(2) 開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。 枠の寸法許容差 ±0.5mm以内		1章 適用区分による風圧力の ( 1 1.15 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 かん水装置 設置する (種類 )	14 溶接金網	8章耐震改修工	事にかかる部分は除き			/	ポリエステル樹 JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合
	外枠と内枠のクリアランス 片側2.0mm以内 (試験方法)		既存保護暦の撤去 行う 行わない		種類 ※ 溶接金網	網目寸	法、鉄線の径(mm) 備考		/	服系化粧パー していること。 ティクルボード
	内蓋(内枠)の繰り返し開閉試験		新植した芝及び地被類の枯補償の期間 ※引き渡しの日から1年		鉄筋格子				/	(試験方法)
	(1) 試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。 吊り金物は、外枠を天井下地取竹用補強材に直接留付ける方式(天井ポードなどの仕上	5 透水性アスファルト	[9.5.2~5、9]	15 鉄筋の継手及び		事にかかる部分は除き	、下記による (5.3.4)		/	(1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法-第2部:ドア用金物」に規定する 験による。
	材を挟んで固定しない方式) とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下 地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従	舗装改修工事	下記以外は、10章その他による		鉄筋の継手の方 ※ 重ね継ぎ				/	(2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上
	い取付ける。なお、野線の種類は、19形とし仕上げ材は、せっこうボード厚さ9.5mm (JIS		既存舗装の撤去及び再利用 ※ 図示		鉄筋の重ね継手				/	
	A 6901「せっこうボード製品」のGB-Rの難燃2級又は発熱性2級以上)二重張りとする。 (2)試験は、内蓋を内じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。						重ね継手の長さのうち大きい値とする		/	
	(3) 測定は、上記録り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がり状態を測 定する。				鉄筋の定着長さ				/	
	"/					ける梁の引っ張り鉄筋 『表5.3.4による	5の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は		/	
				/					/	
				/	機械式定着工法・適用する				/	
				/	適用箇所 種類 · 度	図示による 擦圧接接合 螺合	グラウト固定 ・嵌合グラウト固定		V	
		系 長 設計	- 校 閲 日 付 備				図			(金) 図
= .	原 市 役 所 <del>         </del>		H 11 WH		事	- =				縮    面   面
三原市港町	3丁目5番1号 TEL(0848) 6 4 - 2 1 1 1				名	ニ原リー	-ジョンプラザプール塗装工事 名   名     称		建築改修:	工事特記仕様書 (5)
一冰中尼町							朴小			'`





三原市 役所	エ 事	8
--------	-----	---



工事費内訳

上尹負吖朳								
	 称	数	量	単位	<del></del>	——— 額	備	考
直接工事費								
建築工事								
			1	式				
** <del></del>								
<b>共通費</b>								
共通仮設費			1					
現場管理費			1	式				
			1	式				
一般管理費等			1					
計				式				
┲┲/IT₩								
工事価格			1	式				
消費税等相当額			1	式			消費税率 10 %	
工事費			1					
				式				
調査基準価格								
 			1	式				
調査基準価格の100/110			1	式				

工事種別内訳

工事性別鬥武								
名	称	数	量	単 位	金	額	備	考
建築工事			1	式				
計								

建築工事 種目別内訳

名 <sup>原リージョンプラザ</sup>	称	数	量	単位	金	額	備	考
原リージョンプラザ			1					
-1			1	式				
<del>រា</del> ក់ក្								

建築工事 科目別内訳

三原リージョンプラザ	<i>∓</i> /-	数	量	単位		<b>安</b> 否	/#	<u>±</u>
名 プール層・オーバーフロー内	称	数	里	早 1½	金	額	備	考
			1					
オーバーフロー蓋				式				
			1	式				
計				T.				
				+				

建築工事 細目別内訳

三原リージョン			プール層	]・オー	バーフロ	一内					
名 称	摘	要	数	量	単 位	単	価	金	額	備	考
下地処理RA種	サンダーケレン 超高圧洗浄機使用等			515	m²						
清掃	清掃 水洗い 脱脂共			515	m²						
下塗り	プールコート非鉄金属	用プライマー		515	m²						
中塗り	プールコートスペシャ	VV		515	m²						
上塗り	プルコートスペシャル	AU 2回塗り		515	m²						
コースライン	プールコートスペシャ 色	νAU ライン		176	m						
外周塩ビシート取 り合い	シーリング打ち替え!	MS-2		82. 2							
##					111						

建築工事 細目別内訳

三原リージョンプラザ			オーバーフロー蓋									
名称	摘	要	数	量	単 位	単	価	金	額	備	考	
下地処理RA種 表面から3面のみ	サンダーケレン 超 等			24. 3	m²							
下塗り	プールコート非鉄金			24. 3	m²							
中塗り	プールコートスペシ			24. 3	m²							
上塗り	プルコートスペシャ	ルAU 2回塗り		24. 3	m²							
計												

現場管理費(積上) 明細

名 称	摘	要	数	量	単 位	単	価	金	額	備	考
名 称 事中情報共有シ テム				1	式	<u> </u>					
計											